

光明思想に生きる

鏡かがみに対して微笑びしょうせよ、鏡かがみも亦汝またなんじに微笑びしょうせん

谷口雅春

一日いちにちに数回すうかい、必ず鏡かがみを見て、

最も幸福もっとこうふくなる表情ひようじようをして微笑びしょうし、

鏡かがみに映うつっている自己じこの幸福こうふくそうな顔かおを見みて

「自分じぶんは、神かみの子で幸福こうふくだ」と念ねんじ、

その幸福こうふくの觀念かんねんを自分じぶんの心の奥底おくそこ(潜在意識せんざいいしき)に強つよく強つよく印象いんしやうせよ。

そしてその幸福こうふくの微笑びしょうの時の感じかんじを覺おぼえておいて、

仕事しごとの合間あいまの一寸暇ちやうとひまな時間じかんを利用りようして、

その同じ微笑びしょうをして「私は幸福わたくしはこうふくだ」と念ねんぜよ。

人ひとに対たいしても、人ひとの話はなしているのをきくとき、

このような微笑びしょうを顔かおに浮うかべながら

好感こうかんをもって相手あいての話はなをきくようにするのである。

すると相手あいてはこちらに好感こうかんをもってくれて、

相手あいてと調和ちやうわして事を運はぶことが出来るのである。

人生じんせいは一種いっしゆの鏡かがみであって、

こちらが微笑びしょうすれば人生じんせいも微笑びしょうし、

こちらが眉まゆを顰ひそめれば人生じんせいも眉まゆをひそめる。

(新装新版『真理』第2巻96～97頁)